

せっかち 園長の ひとこと

2016、3、16

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

今日は、年長・もり組の卒園式でした。おめでとうございます！ 来賓の荒井校長先生（赤見小学校）・・・「接続」カリキュラムを1年かけて一緒に作った先生・・・が、子どもたちに分かりやすく温かなメッセージを伝えてくれました。うれしかったです。そして、あさっては修了式。これもまた、おめでとうございます。本当に、うれしい成長です。

幼児期の教育と小学校教育をいい形につなぐ「接続カリキュラム」の話は、何度かしましたね。これはこの4月以降、佐野市内や栃木県内で、もっと言うと8月には日本教育会の全国大会でお披露目されます。これが何よりも、子どもたちのためになることを願っています。

あかみ幼稚園出身の子どもたちは、“後伸びする力”を持っていると、よく言われます。自分で考えたり、仲間と相談したりすることが得意な子どもたちですが、学校に慣れるのは少しゆっくり（そこで「接続カリキュラム」があると安心）。ですが、高学年になるほどに様々な力を発揮するのが、まさに“後伸び”。

かつてあった本当の話ですが、私が地元の中学校でPTA会長だった時、その年の生徒会の役員の全員があかみ幼稚園の卒園生でした。・・・ちなみに、その年のPTA本部役員も全部あかみ幼稚園の保護者OBでした。これはたまたまの偶然の話かもしれませんが、私は、メイプルキッズ、そしてあかみようちえんを巣立ち、少しずつ広い世界に自分を広げていく子どもたちを、応援したいです。

さて、来年度に向けて、いくつか・・・

ここで、平成28年度4月以降のことを少しお話しします。これらは、先日の保護者会理事会でも話題にさせていただいたことが中心です。

①子どもの活動で考えていること・・・まず、運動会で取り組まれてきた、年長・もり組の組体操を廃止する方向で話し合いをしています。

これはニュース等で話題となっている（おもに中学校の話ですが）問題です。運動会の「ねらい」に

立ち返ると、年長組の場合は『クラス意識の高まり（クラス対決による）』ですので、リレーやタイヤとり

↓続く



などを今まで以上に充実させる（例えば、リレーで勝つための作成会議などを今まで以上に行うなど）ことで運動会の「ねらい」は引き続き達成されます。また組体操で育まれる、やりたいことをやるための“がまん”については、以前からも日頃の遊びや生活の中で大切にしてきたので、これからも継続して取り組んでいくことになります。その他、やはり年長・もり組の卒園製作についても、作る物の見直しを行っています。

②保護者の参加の仕方・・・これはキッズフェスティバルの懇談会についてです。2週続けて土曜日に来園することの負担、そして何よりも、感染症が広まる時期ならではの不安（これはアンケートでもお寄せいただきました）を解消するために、プログラムを見直して、当日の子どもたちの舞台の表現の直前に、懇談会で行ってきたプレゼンテーションを聴いていただくのはいかがでしょうか、と検討しています。名称は懇談会ではなくなるかもしれませんね。

③給食の委託業者が変わります・・・今まで以上に、地元の野菜を中心にした食材を使用する（地産地消）ため、地元の食品業者とのパイプが強力である、サントスランチサービスに委託先を変更します。あわせて、調理室の改修（床をドライ式に、また、子どもたちから中が見えるように引き戸のガラスを透明に変更など）や、調理器具の新調・増強を行います。そのため、4月1日以降の数日間は別の場所で作った食事を搬入することになります。ご了承ください。

④子育て支援 NPO re.リードットがさらに充実・・・子育て支援 NPO re.リードットが引き続きリードットを運営しますが、諸事情により、担当およびスタッフが一部を除いて変わります。



☆子育て支援部門には、保育教諭の資格を持った者が加わり、より専門性を高めます。

☆カフェ部門は、営業時間を夕方までとし、2・3号認定の保護者の方も利用できるようになります。そして夕方では、お惣菜サービスも検討されているとか。さらに、土日の営業も検討されているようです。

⑤教材映画（DVD）第3弾・・・これについても以前お伝えしましたが、3作目は認定こども園の「生活」についてがテーマとなります。現在、内容の詳細を東京家政大学の増田教授（監修者）と打ち合わせしています。そこでは、3・4・5歳の午後の異年齢保育が一つの目玉となる

↓続く

予定です。皆さんおなじみのバンビーニですね。実はこれが今、大変注目されているのです。

例えば・・・東洋大学の高橋准教授が中心となり、認定こども園の午後の保育が研究されています。高橋先生によると、本園のように、異年齢のクラスを作って、そこに固定した担任を置く（さらに主任を置く）のは、とても珍しい（いい意味で）そうです。また、いきなり午後に別の担任がくるのではなく、午前中から子どもと関わる保育者が継続して担任になるというところも、大きな注目点だそうです。さらに、14:00までが年齢別の教育で、その後の午後を異年齢保育として、そのためのカリキュラムを作っていることも大切だと言っていました。

いろいろなケースがありますが、他では、午前中の保育者が当番で引き続き午後の保育を担当する、あるいは、まったく別の保育者が午後の保育の担当となることの方が多いようです。

この研究の現時点での成果が、5月に開かれる日本保育学会で発表されます。ちなみに発表者は、本園の高橋雄貴です。

- ⑥次の改修は・・・先日終わった工事で、0・1・2歳のスペースがより温かい感じになりました。そして来年度は、まだ計画段階ですが、3歳児と4歳児の、壁をロッカーで仕切っている所の改修を考えています。間仕切りのロッカーが少々古くなったこと、そして隣り合う保育室の「音」の問題を解決するためです。上でお伝えした調理室の改修、そして0・1・2歳のスペースの工事とあわせて、これも行政からの補助は使わずに（本来は何らかの補助をいただきたいところなのですが、財政難のようです）、全額園負担で行います。ここには、皆さんからいただいている「施設環境整備費」の一部が充てられます。

今までもそうですが、保護者の皆さんと、子どもの成長を共に喜び合う関係を培ってきたことで、本園は確実に、いい方向に進んできました。

まだまだ その途上ですが、これからも皆さんと、力と気持ちを合わせて、子どもがさらに 元気に遊んで、うれしくなって、そしてそんな子どもたちと関わる私たち大人たちも、さらに うれしくて元気になるようにしたいです。そして園の中だけではなく、卒園した親子や地域が、もっともっと子育てを楽しめるようにしたいものです。



『遊び保育』に保育を変えたいという園の話・・・

先日、大分県の認定こども園に招かれて行ってきました。何のためによばれたのかと言うと、保育を『遊び保育』に変えたいというのが、その理由でした。その園長先生は、保護者や職員たちに、以下のようなポイントで『遊び保育』の大切さを説明していました。

1. 汐見先生（本園の「認定こども園わかる本」の監修者）の発言から

「かつての豊かな生活環境のもとで遊んで育てていた子ども、つまり『土台』を既に持った子どもを保育していたときは、園では遊びで身につかない、礼儀作法や絵や音楽など、いわば『上物』を教えることで、より豊かに子どもを育てようと考えていました。でも今は、まず『土台』作りを援助するところから始める必要があります。」（母の友 4月号）

2. 文科省の発言から

- 日本の子どもたちは・・・自分の考えを述べること、自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が、国政的に観て低い。
- これからの子どもたちは、人口の減少、グローバル化や技術革新等の影響から、大きな影響を受ける。世の中や職場環境が変わり、今ある職業の中には無くなるものもあるだろう。

『遊び保育』は、本当に少しずつですが、日本でも広がっていると感じました。昔から大切だった「遊び」が、今、世界中の動きから、改めて注目されているのですね。

大分の園長さんは言っていました。「これからは、本当に『遊び』でないと、ダメなんです！」・・・私も、そう思います。

〈訪問した園の資料より〉
認定こども園は0才～5才までの育ちが連続したところなのです。

「ひとりごと」に今年度もお付き合いいただき、ありがとうございました。理屈っぽくて、すみません。来年はさらに、分かりやすくします！